



からふる
き"あちゅき"あちゅ!
★For Adult Only★



からふる
きゅあちゅきゅあちゅ!
★For Adult Only★

「なっ…何なんですか…！
こんな…拘束される覚えなんて…う
いや、な。このカジノにスパイが
潜入しているという情報が
入ったらしくてな
…っ！

「怪しいと思われるイレブンは
全て排除しろ」と
上からのお達しでね

「そ…んな…わ、私は違うっ！
「はっ…イレブンの言うことを
信用するわけね」だろう？
「大人しくしてりゃいい思い
させてやるから…ようっ！
「いやあっ！やっ…やめ…う！」





「いやあああぁー
「おらぞうちもさっさと破けよ
「わってるって...でもってコレも...
「んっ...ぐううー?
...ぶ...あつ...何...飲ませ...」

「女は全て薬漬けにして
調教することになってるんでな
「な...何を...言ってる...
「だいたい...即効性のよくくきく奴
だからすぐに頭の中飛ばせ？」



「ほら、舐めろよっ」
「んんっ…ふぁ…やあっ…」
「何だあ？まだ薬効いて
ないのかよ…抵抗しても
いーコトないんだからさあ
「はっ…あ…んっ」
「そうそう、舌使って…っ
素直が一番…ってな？」



「それにしてもデケエ乳だなこの女…
これならコッチでも楽しみそうだぜ」

「くっ…んっ…んっ…♡
「お？感じてんのか？やっど薬が
知ってきたみたいだな」

「んっ…♡…ふ…う…んっ♡

「コイツにも乱れて貰わねーと

俺らも楽しくねえからなあ…

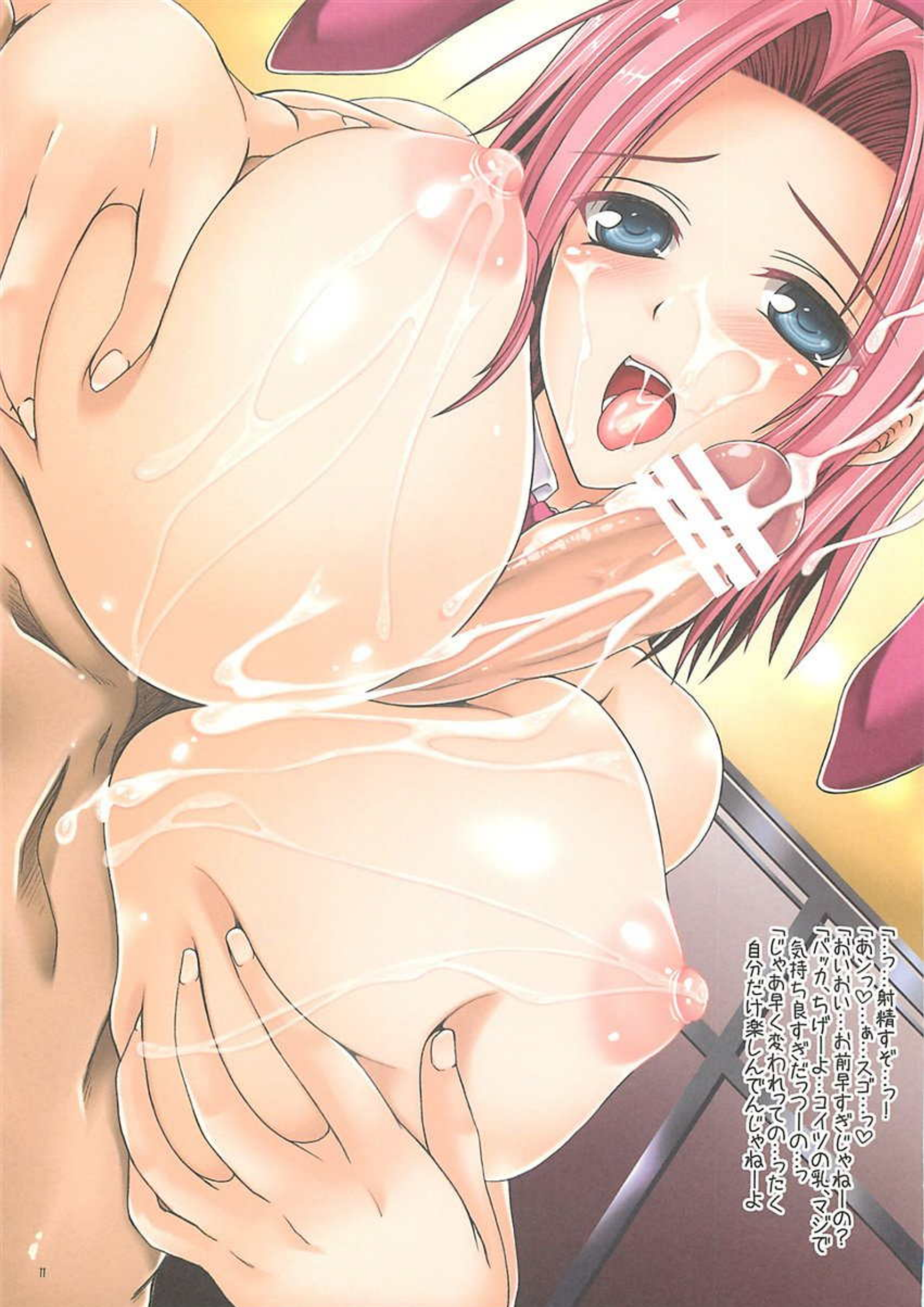
ほらもっと感じてよ良いんだぜ？

「んっ♡♡…や…ダメ…胸は…あっ♡

「やっ……らめえっ……でちやっ……っ♡
……っああ……っ♡
「うおっ……ゴイツ乳噴きやがった
「スゲえな、おい……感じまくってんじゃん
これなら色々楽しめそうだな
「あ……あ……ふぁ……っ♡




「じゃあ…そのエロ乳で
パイプリーして貰おうか
「あ…はあ…♡
「うっわ、柔らかけえ…やっべえコレ…
「おら…もっと挿んで扱けよう
「んんっ♡は…っあん…♡



「うっ…射精すぞ…うー」
「あッっ♡…あ…スゴ…う♡」
「おいおい…お前早すぎじゃねーの？」
「バックらげーよ…ヨイツの乳マシで
気持ち良すぎだっの…うっ」
「じゃあ早く変わらつての…うたく
自分だけ楽しんでんじゃねーよ」



「うーか指なんかじゃ足りねえだろう？
もっとぶっとくて硬いのが
欲しいんじゃないの？」
「ほらそのトロトロ開ききった
エロまんこだちんぼ挿れてやるから
…欲しいって言えばよ」
「あ…っ♡欲しい…っ♡ですう…っ♡
ぶっといおちんちん…挿れて…♡」



「お…すげ、キツッ…絡み付い…てっ
つか、コイツ…処女っぽいぜ…っ
マジかよ…薬効いてるとはいえ
処女でこんな淫乱なんてスゲェじゃん
うあ…ラーマベ…マジ止まんねえ…
「あっ♡あ…っ♡スゴ…っいのおっ♡
ナカで擦れて…っ気持ちいい…っ♡



「くっ……お……たまんねえ……射精る……うー
「あんら♡あ……あああり♡
「うお、すげえなオイ……コイツまた
乳汁出して……イキまくってやがるぜ
「くっお……すげ……んじつのもん……
絞り取られる……
「あ……ナカに……でてる……の……
気持ちいい……♡



「今はすげえ一回は眺めだな、オイ
まんこからザーマン溢れまくってやがる
」お…おあ…ケツ内も締めまるぜ、ロハ、アハハ
」おら、口開けろよ、うー
」ふああ…っ♡あ…♡もっと…♡
」まだまだイケそうだな、ほら、アハハ
」んっ♡…あ…は…♡



「すっげえザーメンまみれで
もうどろどろだな…まだ使えるか？
「あーもう完全にイっちゃまってるんじゃないやね？
「ま、玩具だし…壊れてても使えるだろ
「あ…はっ♡もつと…せーしかけてっ♡
こっちも…おまんこも早く犯してえ…っ♡



「俺はただ、貴女の魅を弄んでいるだけだ
「な...っあ♡」

「...もう拒めないで、わかっていてるでしょう？」



「嫌だなあ、先生...別に征服しようだなんて思っ...ていませんよ
「あ...っ」



「...っ...こんな方法で私を征服出来ると思っ...て...」



「良いじゃないですか...このまま快樂に身をまかせてしまえば...っは...あ...っ」

「ダメだ...っ...このままでは本当にゴイツの良様にされてしまっ...っ」



「もともとそういう魅なのかそれとも...生徒にこんな事をされて興奮している...とか?」
「な...にを、バカな...っ」



「んん...っ♡」
「...随分と感度が良いんですね、先生...」
「こんなに乳首を立たせて...」



「私から誘って
主導権を握ってやる…」

「ルルルッ…」

「…それなら…
いつその事…」

「どうしました？先生
胸よりもコッチの方が
良いんじゃないのか？
どうせ…するつもりだろう？」

「へえ…随分アツサリと
堕ちてくれるんですね…
…というよりも…コレが欲しく
なつたんじゃないですか？
『？…ち、ちが…』」

「違わないでしょう
こんなに濡らして
いるんですから…
お望み通り
挿れてあげますよ
「…っあ！」

「や…っあ…そんな…
イキナリ激しく…
こうして欲しかった
んじゃないんですか？
…イイ顔してますよ、先生…
「あっ♡…そんな…事…」

「欲しがっていただけ？
そんな…そんなわけ
ない…だろう？」

「ビッ」

「ぽんぽん」

「ぽんぽん」

「ぽんぽん」

「ほら、ルルーシユ…今度は
後から挿れても良いぞ…う
「違うでしょう、先生…
『後から挿れて犯して下さい』
って…懇願して下さいよ」

「…なっ？
「貴女は拒めないはず…
…ですよね？先生
「ルルーシユ…貴様…
「…さあ…言之、グイレッタ…又
「…っ…う…後から…挿れて…
犯して…下さい…っ

カ
い

ア
ニ
メ

「あー…や…あぁっ♡
「拒めないとは言え、自分から
ねだるなんて…相当淫乱な
女性だったんですね、貴女は
「ひっ…あぁっ♡…いやっ…
「嫌だと言いながら…自らも
腰を振って…いやらしい女性だ

「違う…っ！私はっ…私が
主導権を握って…コイツをっ



「……こちらはどうですか？」
「ひっ……っ……やあ……何を……」
「……膣内が締まって
具合が良い……」こちらでも
感じるんですね、先生
「か、か……んじる、わけ……」
「……あーあああ……♡」

びくっ

お尻が

びく

すっ

「あ……♡ふ……あ……
「……どうしましたか？先生……
随分大人しくなりましたね
「ルル……♡……
も……止め……♡」

「でも感じているんでしょう？
さつきからイキっぱなしじゃ
ないですか
「う……あ……♡あ……♡
「ほらまた……
膣内が締まって……絡みつく……♡」



「射精しますよ先生
あー……あ……あ……♡
またナカに……
ナカに……出されて……」

「ああまたイキましたね？
……中に出されてイクなんて
本当に貴女はいやらしいんだ
グレイック先生……
「ダメ……だ……ら……ん……
気持ち……いい……♡」



「あ…寒い…こんなにくさくさん…
先生…もう抵抗しないんですね
…自らを晒け出してまで俺を
懐柔しようとしていたのに…
…残念だったな」

「…あ…
でもこれで貴女はこちら側の
人間だ…これからも宜しく
お願いしますよ…先生」

「私…は…これで…
貴方と幸せに…」



「うわ、もうトロボトロボだな
アーニマのロゴ」
「...や...見ちゃダメ...」
「あれ?...恥ずかしいのか?」
「...わかんないけど
マ、なの...」

チキチキ



「ふうん...まあ、イイけど
大分柔らかくなったみたい
だし...俺のも挿入るだろう
...良いよな?」
「...ん...」

「あ……」
「っ……やつぱちようとキツイな……」
「もう少し力抜けるか？」
「わ……わかんない……」
「ゆっくり息吐いて……っ……そうそう……」
「……お……全部挿入った……動くぞ？」
「……あ……っ……やあ……っ……あ……っ……」

おんおん

おんおん

おんおん

おんおん

おんおん

「ん……動きはスムーズなんだ
けどなあ……痛いかな？アーニャ……」
「ううん……違う……ぞくぞくする……」
「ジノ、もう……っ」
「イキそうか？」
「う……ん……イキ……そう……っ」
「じゃあ、俺も。」
「……アーニャの中に出すぞ？」
「ん……ふあ……あ……っ……」

「あ……」
「ふう……大丈夫か？アーニヤ」
「ん……へーキ」
「そつかそつかー」
「んー、お尻でするのも結構面白いなー♪」

ほき

佳

お尻

ごぼ

「……ぬるぬる、する」
「あ……中からいっぱい溢れてるからなあ……」
「……あ、掃うとくか？」
「……うん」
「ホント、好きだねえ……」
「……そういうの、パカ」

「あの…ホントに
見せるだけで良いの…?」
「ああ…もう出るから…」
「でも…恥ずかしいんだから
は、早く…してよね…」
「うわ…うわぁ…っ
どうしよう…これ…って…
私で…興奮してくれてるって
コト…なんだよね…?」

ドキ
ドキ





「……射精るよ……」
「ぎゃあ……うー」
あつ……スゴい……熱い……」

「これが……ルルの……精液……なの？」
「凄くいっぱい出てる……」
「頭……おかしくなっちゃうそう……」

あつ

あつ



「あはっいっぱい出たね…
身体中どころどころ…だよ？」

「…ごめん
い、良いの…ルルだから…」

「え…？
な…何でもなーいっ」

「ルルにだけ許してあげるん
だから…ね？」

ルル

「ルルル」シヨ、お前、
「ようほど溜まっていたんだな……」
「久しぶりだからって」
「ちよと出しすぎだろう？」
「お、お前こそあんなに乱れて」
「いたじやないか……」
「まあ、お前が相手だからな」
「……え？」

「はあ……少しは考えろ……バカ男」
「な……」
「まだするんだろ？」
「ふふっ……今度はちゃんと私も」
「イカせるんだぞ？」
「……わかってる……」



はあ

ふふ

どろろ

初めましての方もおなじみの方もこんにちわ。樹崎祐里
です。コードギアスR2フルカラー本第2弾です。

遂に始まりましたR2!もう面白すぎて毎週楽しみに
楽しみにしてません...!そして同時に続きが気になって気になっ
て仕方ないです...あまもどかしい...!と思いつつ、日曜を
待つ日々が続いております。こんなのは欠かすなま。

現時点では話まで話が進んでいる状態なのですが、何
と言うかエロとシリアスが混ざり合っていて色んな意味で楽
しい作品に仕上がってますね!カレンさんいよカレン。ヴァレツタ
先生の水着姿もやっぱり最高で素敵でした...!

さて今回の本ですが、カレンの話はイベント本「からぶるぎ
あちゃ!」の再録です。読みたいのに読めない!というご意
見をたくさん頂いたので...そのおかげで36Pという、オール
カラー本としては(自分的には)ページ数の多い本になまし
た。他キャラは全部新規マンガですが、カレン本に合わせて
CG集チックな仕上がりになるようにやってみました。その分
ちゃんとした話になるようにはしてみたのですが...どうなで
しょう...。あ、アーニャは現時点でまだあまり登場してないの
で若干妄想/妄想ですが、ジノがアーニャを可愛がってた
ら良いなあ、とか思ってます...コレ。あとヴァレツタ先生は扇
さんと幸せになって欲しい!と思って...るはずなのに鬼畜な
1/10にやられてしまいました...あれ?やっぱり、1/10は
くは楽しいなあ(マテ)。あと表紙にいるのにCCCの描き下し
がなくてあいません。これはまたいつかリベンジ出来れば良
いなあ、と思えます。R2はまだまだ描きたいです!

それでは、ここまでお付き合いありがとうございました。
次もまたお会い出来ることを願いつつ...!

2008.07 樹崎祐里。

:: からぶるぎあちゃぎあちゃ! ::

20080601*HAPPY WATER/樹崎祐里

連絡先*<http://www3.fc2.com/happywater>
naochu55@nifty.com

印刷所*ネコのしっぽ様

≡ SPECIAL THANKS ≡
泉くん(構成・彩色手伝い)

※禁:無断複製&転載。
※18歳未満の購入・購読を禁止します。



∴ からふるぎあちゅぎあちゅ! ∴
200806*HAPPY WATER Presents
For Adult Only!